

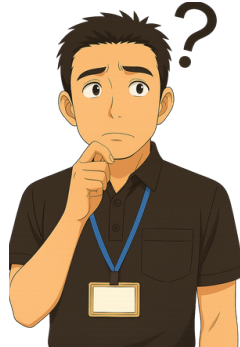
## お題「置き換え修理について」

西田：さあ今月も始まりました、ITESの一言ラジオ！今回は「CRTモニターの置き換え」について話しましたね。

永田：はい！CRTはまだまだ現役で使われていることや、修理が難しいからこそ置き換えが必要だ、ということまで理解できました！

西田：今回はその続きだ！置き換えの中で一番のポイントになる、「信号変換」について深掘りしよう。

## 【信号変換？】



永田：前回も出てきましたが、CRTとLCDでは「そのままつけても映らない」というのがポイントでしたよね。

西田：その通り！CRTは、今では使われなくなった独自の表示信号で動いていることが多いんだ。

一方、現在のLCDモニターは、標準化されたデジタル信号が前提なんだ。

永田：うーん、「言語が違う」といいたいことですか？

西田：いい例えだね。お互いに通じない言語同士だから、翻訳役＝信号変換が必要になるんだ！

## 【スキャンコンバーターの役割】

永田：もしかしてその「翻訳役」というのが、前回出てきた「スキャンコンバーター」ということですか？

西田：そう！CRTに入力される信号を解析して、LCDで映せる信号に変換する装置だね。

## ただし！



西田：ここが難しいところで、CRTの信号には決まった規格がないんだ・・・

永田：えっ、規格がバラバラなんですか？

西田：そう。メーカーや機種ごとに違うことも多くて、解像度・走査方式・同期信号などが全部違うケースもある。

永田：それだと、毎回オーダーメイドみたいな対応になりそうですね・・・

西田：まさにその通り。だけど一般的な変換器では、その「オーダーメイド」に対応できないケースも多くて、「変換できないから置き換えできない」ということも起こりうる。

永田：前回の「つなげばOKじゃない」という話が、ここにつながるんですね。

## 【ITESならではの対応】

西田：そこで生きてくるのが、ITESで開発した信号変換機なんだ。これまでの実績の中で、さまざまなCRT信号に対応してきたノウハウをもとに、幅広い信号パターンに対応できる設計になっている。

永田：だから「機械に組み込んであるほとんどのCRTが置き換え可能」と言えるんですね！

西田：そう！完全に同じではないにしても、現場で実用できるレベルまで「映す」を再現できるかどうか重要なんだ。

## 次回のテーマ

【表示器  
(タッチパネルの修理)】

永田：今回印象に残ったのは、「置き換えモノを換えること」ではなく、「情報のやり取りをつなぎ直すこと」なんだという点でした。

西田：いい視点だね！じゃあ次回は、表示器つながりでもう一歩踏み込んで、「表示器(タッチパネル)の修理」について話そう。

永田：画面が映らないだけじゃなく、「触っても反応しない」トラブルですね。

現場でもよくありそうなので、しっかり学びたいです！

## 今日の一言

「つながらないのは故障ではない。翻訳が足りていないだけ。」



MCSCVT1形  
モノクロCRTモニター信号変換機  
\*アイテスTSC 自社開発製品  
特許第6893720号取得